

GAKKAI NEWS 第2号

2011年8月30日発行

推薦図書

スウィフト

『ガリヴァー旅行記』

岩波書店ほか

——船医ガリヴァーを乗せた船が大嵐に遭い、乗客は皆、海へ投げ出されてしまう。一人になったガリヴァーが漂着したのは小人の国であった——。言わずと知れた冒険小説であり、誰もが前述までにご存知でしょう。しかし、この小説が単なる冒険譚ではなく、18世紀のヨーロッパを風刺した作品であること、また、前述の続きに巨人の国、日本、空飛ぶ島、馬の国の話があることまでご存知の方は少ないのではないのでしょうか。もしご存知でなければ、またご存知であっても、今一度の精読をお薦めします。とは言え、あまり詳しい粗筋を書きと読んだ時の面白味が薄くなってしまいますから、ここでは3つのキーワードをお伝えすることだけにしておきたいと思います。キーワード①「高踏党と低踏党」、キーワード②「ラピュータ」、キーワード③「フイヌム族とヤフー族」。以上3つのキーワードはこの作品を最後まで読んだことのある方ならピンと来ると思います。ピンと来なければ、(何度も繰り返すようで申し訳ありませんが、)今一度の精読をお薦めします。分量は文庫版で400～500頁と普段あまり本を読まない方にとっては少々多い気がしないこともないのですが、読んで後悔することはないと思います。

(H. O)

Andrew Matthews

『Freckles』

Penguin Readers

イギリスのウェールズ地方の、高校生たちが繰り広げる少し甘酸っぱい青春ストーリー。英文を読み終えた後に、さわやかでハッピーな感じを、主役の男女から与えてもらえたので良い本だと思う。

主役の女子高生のスージーの悩みは、顔じゅうに広がるたくさんのそばかす(Freckles)。その悩みは妄想的にも表現され「そばかすが体じゅうを覆ってしまい、それらが一つの大きなそばかすになるのでは…」とティーンエイジャーらしくて面白い。そんなスージーは、転校生でとてもシャイなジャックに片思いの恋の最中。友人で美人のドナは、男子にモテモテの少々派手な同級生で、そのドナもジャックを狙っている。モテなくて自信のないスージーは、ジャックはドナが好きだろうと思い込んでいたが…。シャイなジャックと自信のないスージーの電話でのやり取りはクライマックス。展開が進むほどに読者の感情を高めていく。そしてお互いに持っていたネガティブな壁を乗り越えた2人は、“GreatFriend”になったのです！

(Y. K)

安藤 宏基

『カップヌードルをぶつつぶせ！〔創業者を
激怒させた二代目社長のマーケティング流儀〕』

中央公論新社

著書は、日清食品 2 代目社長の下でヒット
商品を開発・販売するまでをつづったエッ
セイです。内容としては、革新的な考えを
実行・支持する例が多く、評価は読者それ
ぞれに異なると思います。テーマは「カッ
プヌードルとチキンラーメン」という 2 大
商品に頼り切った日清の改革です。それは、
社長が日本の消費者の嗜好多様化を悟った
ゆえのものです。

著者は客観視をした上でマーケティングを
展開、そしてそれらの行動には全て理由が
あります。この 2 点は誰であれ重視すべき
ことではないでしょうか。

父親で創業者でもある安藤百福(ももふく)
氏との、社長の意見に関する議論について
も会話も含め記され、その頑固さゆえに理
解してもらうのに苦労したとあります。社
長の子供時代に、百福氏のラーメン開発を
手伝いそこから知識を得たという回想記も
あり、一昔前のインスタント技術の解説や
百福氏の情熱・個性がうかがえます。

現在の日清の社員との交流もユーモアを含
めた文章で書かれています。社員それぞれの
立場を把握し、言葉を選んで接します。
批判する際にも、社員の士気を下げないよ
うにする気配りです。社長の「社員目線の
客観視」には感服しました。

人を束ねる・集団で計画を実行する参考書
として、また、カップラーメンや人間観察
に関心がある人には特におすすめする作品
です。

(D. K)

編集後記

日頃から本をよく読む人ならご存知でしょうが、
図書館あるいは書店へ行くと、推薦図書や新着図
書として、その時々話題の本が入り口付近に並
べられているのを見かけるかと思います。しかし、
それは本を提供する側(司書または店員)の情報で
あって、実際に学生が日頃どのような本を読んで
いるのかは分かりませんよね？

また、日常的に本をほとんど読まない人にとっ
ては、学生のうちにどんな本を読んだらいいか分
からない人もいます。

そこで今回、我々学生評議員が、最近読んだ本
の中でオススメの一冊を、皆さんに紹介すること
にしました。

紹介するにあたり、本のジャンルは問わないとい
うことにしたのですが、これには学生評議員によ
って反応が分かれました。普段からよく本を読ん
でいる人であれば何も問題ないのですが、あまり
本を読む習慣がない人にとっては、どんな本を薦
めたらよいか分からず、かえって苦痛に感じたか
もしれません。

この記事を読んで、一人でも多くの皆さんが、今
回紹介した本を手にとってもらえたらと思います。

(H. O)

